あいち観光ボランティアガイドの会総会　　2018.7.6

# 新美南吉は半田市より安城市で輝いていた

あいち観光ボランティアガイド総会の、事前研修は安城を巡る 3 コースが用意されていました。その中で新美南吉ゆかりの地を巡るコースに参加して、安城市と南吉の関わりがどのようなものだったのか知ることが出来ました。

## 街は新美南吉一色に

ＪＲ安城駅を降りて市の施設「アンフォーレ」へ向かう途中の建物、日本通運安城倉庫の壁面一杯に「南吉の願いごと」が描かれています。安城で童話作家になるという夢をかなえた南吉の、①おぢいさんのランプ②貧乏な少年の話③蟹のしゃうばい④ごんごろ鐘⑤王様と靴屋⑥うた時計⑦こぞうさんのおきょう、の七つの作品が描かれています。これだけでも立派なものと思いましたが、こうした南吉のお話がモチーフになったウオールペイントや像などが 31 か所もあるという。南吉をテーマにした街づくりを徹底しているのに驚いた。やはり、何かをやろうとするなら徹底してやることが大事と教えられる。が、それにしても費用もかさむだろうから、どんな街づくりをするのか、しっかり協議したのだろう。

半田市と比較してみると子供のころの半田時代と、作家として、教師として過ごした安城時代の違いがなせることと思う。

⇦　日本通運安城倉庫に描かれた南吉童話

## 新美南吉ゆかりの地を巡る

最近になって安城市が新美南吉に力を入れている情報に少しは触れていましたが、新美南吉ゆかりの地を巡るコースに参加して、南吉自身のことはもちろん安城市の力の入れようが理解できました。案内していただいた中で特に印象深かったことをコース順に整理してみました。

**①　桜町小学校に残る南吉の詩碑**

南吉は 18 歳で半田中学校を卒業して、半田第二尋常小学校の代用教員を勤めます。19 歳で東京外国語英語部文科入学、23 歳で卒業し東京土産品協会に勤めますが、体調が悪化してその年の 11 月に帰郷します。24 歳の時河和第一尋常小学校の代用教員を勤めます。なぜ代用教員かというと、この時は教員免状がなかったのです。というのもおそらく当時は軍事教練も必須でしたから、体の弱かった南吉はすべて◎がもらえなかったのだろうと言われています。

その後教員免状をとり昭和 13 年 4 月、25 歳の時に安城高等女学校に赴任し英語・国語・農業を教え

当時の安城高等女学校は、現在の桜町小学校

「でで虫碑」

ました。同時に着任時に入学した 19 回生の担任になり、卒業までの 4 年間を受け持ちました。その年には 16 回生の修学旅行（東京・日光方面）に付き添い、8 月には滝山寺へ生徒を連れて自転車旅行に出かけています。

当時の安城高等女学校は、現在の桜町小学校になっています。訪れると校長先生がわざわざ出迎えてくれました。校門のすぐ隣には「安城高等女学校跡碑」と「でで虫碑」があります、このでで虫碑は南吉が亡くなって 5 年後に安城高等女学校の一部の同僚や教え子により建てられました。さらに平成 5 年南吉生誕 80 年を記念して「南吉のうた庭園」が造られ、これらの碑はこの庭園の中にあります。そこにはごんと兵十の石像もあり、童話「ごんぎつね」の一場面が表現されています。

**② 安城の 5 年間で燃え尽きた南吉の生涯**

* 昭和 14 年、26 歳の時に新田町字出郷の大見四郎さん方に下宿します。これは学校の教員は学校の近くに住まわないといけない、というお触れがあったそうです。ガイドの説明では、何かの時に急ぎ集まることができるようにするためだったらしい。

* 昭和 15 年、27 歳の時には宮路山へピクニックや 19 回生の関西旅行に付き添い、小説「大力の黒牛と貨物列車の話」を書きました。

* 昭和 16 年、28 歳の時に岩津天神へ遠足に行く。過労から肝臓を患い一時病床につく。この 10 月には伝記「良寛物語　手毬と鉢の子」を出版。しかし、12 月に腎臓結核が悪化して血尿が出る。

* 昭和 17 年、29 歳の時童話「花のき村と盗人たち」を書く。10 月には童話集「おぢいさんのランプ」出版、11 月になると勤務先をしばしば休む。

* 昭和 18 年 1 月、このころより病状悪化し学校を欠勤。2 月 10 日長期欠勤のため安城高等女学校退職。3 月 22 日喉頭結核のため 29 歳 7 ケ月で永眠。 9 月に童話集「牛をつないだ椿の木」「花のき村と盗人たち」出版。……こうしてみると、「安城は南吉が作家として、教師として過ごした第二のふるさと」と言えるのではないでしょうか。南吉が安城で過ごした 5 年間は、教員という社会的地位を得て経済的に安定し、さらに教え子との交流から精神的にも充実していました。この安城時代は新美南吉が最も輝いた時期と言えましょう。

### ③　牛の詩碑

市制 20 周年及び安城文化協会発足 25 周年を記念して、安城公園内「文学の散歩道」の一角に昭和 47 年に牛詩碑が建てられました。「牛は重いものを曳くので首を垂れて歩く…」と刻まれています。「新美南吉詩集」に載せられ世に広く知られるようになりました。ガイドはこの碑を少し斜めから見ると、形が牛の顔に見えませんかと言っていましたが、南吉は大正 2 年の「丑」年生まれでした。

### ④　花ノ木町の地蔵さんと観音様

安城神社を経て花ノ木町に入ると、観音様とお地蔵さんがあります。昔、花ノ木観音のあった所で太平洋戦争末期の大地震で本堂・庫裏が損傷し廃寺となり、本尊も行方不明になりました。かっては大きな料亭があり、働いていた料理人、仲居さんや芸子さんも遠くの人たちが多かった。亡くなった人の縁者と連絡の取れない人はこの地に葬られましたが、これを不憫に思った料亭主がその例を弔うために作ったのがこの観音様です。ここからほど近い元更生病院の南の路地にひっそりと建っていました。50 年後の平成 18 年に新しい観音様が建てられましたと説明板に記されていました。

地蔵菩薩は、花ノ木観音の境内にあった小さな地蔵です。南吉が安城高等女学校の通勤のコースであり、お参りした可能性があり、「花の木村と盗人たち」に登場する小さい地蔵のモデルかもしれません。その先の交差点右のお店「フットバランス」の壁面に、黄色ぽい色調の「おぢいさんのランプ」の絵が大きく描かれて、いやがうえにも街ゆく人たちの目を引いています。

### ⑤　静かに本を読む新美南吉

交差点の角にガラス窓の古い建物と説明の石板があります。それは新美南吉生誕 100 年を記念して造られたモニュメントで、昔ながらのガラス窓の中に南吉の想い出の写真が並んでいます。

セピア色の写真はそれだけで懐かしいものですが、在りし日の南吉はなかなかの美男子で当時の女学生たちにもてたのではないかと想像されます。

そして、その先にはベンチで本を広げる洋装の南吉と、それを見つめる二人の女学生の像が置かれています。在りし日の南吉は、きっとこんな具合に生徒たちと触れ合っていたことでしょう。

**⑥ 「丸碧」発祥の地**

安城は明治 13 年（1880）の明治用水の完成と、明治 24 年（1891）の東海道線ＪＲ安城駅の設置により発展してきました。明治 34 年（1901）には、愛知県立安城農林学校の開校によって、先進的な農業経営が導入され、大正末期から昭和の初めには「日本のデンマーク」として全国に知られるようになりました。その中で大正 4 年（1915）に郡内の 34 の産業組合が連合して設立、この地に事務所棟が建設されました。日本デンマークを象徴する組織で、現在のＪＡあいち中央の前身が丸碧です。

以上、約 2 時間で回った新美南吉コースのまとめです。
この後図書館の新美南吉コーナーに立ち寄り、南吉のエピソード集をいただいてきました。その中で気の付いたことをいくつか並べてみますと、若い南吉の暮らしぶりを垣間見ることが出来ます。

- 安城高等女学校に赴任した南吉は、東京の大学を出たハンサムな若い先生ということで生徒の関心も高く、南吉も生徒らの指導に情熱を注ぎました。
- 校長が詩を誉め、生徒をたとえ 3 人か 4 人でもいいからうまく指導してくれと言った。
- 泊り。防空訓練第一夜、サイレンや警鐘による警報を聞き届けて、県からきている表に記入しなければならぬのでおちおち眠られぬ。
- 5 月のサラリー、宿に家賃・電気代を 2 円 90 銭払ったら、あなたは電灯をお使いならんからと言って 40 銭返してくれた。
- 宿の人にただ一つだけ後ろめたいことがある、廊下から庭に向かって小便をすることだ。爺さんに挨拶する時はそのことを言い出されはしないかとびくびくしている。
- 童話原稿をすばらしいと誉めてきた、本の名は「久助君の話」ではいけないそうだ。ちゃちだが「おじいさんのランプ」ということにした。
- きょうは稲垣シズエと戸奈多美子が割烹の実習でできたごちそうを持ってきてくれた。かぼちゃの中に玉ねぎと肉の細切れを入れて蒸したものと、みつまめであった。